

「モーセに勝るイエス」

ヘブル3:1~6

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

- ①信仰が後退しつつあった第2世代のメシアニック・ジューたちへの励まし
- ②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。
- ③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

*教理的教えの合間に、警告の言葉が挿入句のように出てくる。

(2) 前回までの箇所、著者は、御子が御使いに勝る方をであることを論証した。

- ①この箇所では、イエスがモーセに勝る方が論証される。
- ②モーセは、ユダヤ人にとっては国民的なヒーローである。
- ③イエスがモーセに勝る方を論証すれば、以下のことが証明される。

*キリストを信じる信仰は、ユダヤ教に勝る。

*キリストが提供するものは、モーセが提供するものに勝る。

*つまり、新約は旧約に勝る。

④それゆえ、キリストを離れてモーセに回帰することは、不条理である。

2. アウトライン

- (1) 使徒であり大祭司であるイエス (1~2 節)。
- (2) モーセに勝るイエス (3~6 節)

結論:

- (1) 旧約聖書から学ぶこと
- (2) モーセとイエスの対比

イエスはモーセに勝るお方であることを学ぶ。

I. 使徒であり大祭司であるイエス (1~2 節)。

1. 1 節

Heb 3:1 **そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。**

(1) 「そういうわけですから」

- ①今まで論じてきた内容(御子は御使いに勝る)を前提に、次のテーマに移る。
- ②天使ではなく、御子に目を向けよという勧告が与えられる。

- ③御使い以外に、ユダヤ人たちの関心を奪っていたテーマがもうひとつある。
- ④それが、モーセである。

(2) 「天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち」

- ①この呼びかけの言葉は、今まで論じてきた内容の要約となっている。
- ②手紙の受け手は、「兄弟たち」である。
 - *互いに兄弟であるだけでなく、信仰のパイオニアである方とも兄弟である。
 - *ヘブ2:11~12

Heb 2:11 聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて元は一つです。それで、主は彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、こう言われます。

Heb 2:12 「わたしは御名を、わたしの兄弟たちに告げよう。／教会の中で、わたしはあなたを賛美しよう。」

- ③彼らは、「聖なる兄弟たち」である。
 - *キリストによって聖なる者とされた。
- ④彼らは、「天の召しにあずかっている」
 - *天の召しとは、将来の御国での栄光に与ることである。
 - *「ともに与る」、「共有している」という意味である。

(3) 「私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい」

- ①彼らは、イエスについて学び、理解を深めるべきである。
- ②ここでは、イエスに2つのタイトルが与えられている。
 - *使徒と大祭司
- ③彼らは、一度はイエスを信じた人々である。
 - *しかし、初歩の信仰に留まっていた。
 - *イエスについてさらに学び、理解を深める必要がある。
 - *これは、ファストフード、ファストファッションの時代への警句となる。

(4) イエスは、「使徒」である。

- ①「使徒」というタイトルは、12使徒とは異なる意味で使用されている。
- ②イエスは、神から派遣された者である。イエスは、神を代表している。
 - *このテーマは、3:1~4:13で論じられる。
- ③ヨハ1:17

Joh 1:17 というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。

*モーセは、シナイ契約と律法をもたらすための使者であった。

*イエスは、新約と恵みのディスペンセーションをもたらすための使者。

(5) イエスは、「大祭司」である。

①モーセではなく、アロンが大祭司であった。

②しかし、実際に大祭司の役割を果たしたのは、モーセであった。

*金の子牛事件(出32章)

*カデシュ・バルネア事件(民14章)

③イエスは、大祭司であり、民の代理人である。

*このテーマは、4:14~7:28で論じられる。

2. 2節

Heb 3:2 モーセが神の家全体のために忠実であったのと同様に、イエスをご自分を立てた方に対して忠実なのです。

(1) モーセは、神に忠実な最高の例である。

①民12:6~7

Num 12:6 仰せられた。「わたしのことばを聞け。もし、あなたがたのひとりが預言者であるなら、【主】であるわたしは、幻の中でその者にわたしを知らせ、夢の中でその者に語る。

Num 12:7 しかしわたしのしもべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者である。

②モーセは、「神の家全体のために」忠実であった。

*「神の家」とは、単に幕屋のことではない。

*「イスラエルの家」、つまり、「イスラエルの民」のことである。

(2) しかし、イエスの方がモーセよりも神に対して忠実である。

①モーセは、失敗を犯すことがあったが、イエスにはそれがない。

②申18:15

Deu 18:15 あなたの神、【主】は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。

*イエスは、「モーセのようなひとりの預言者」である。

II. モーセに勝るイエス (3~6節)

1. 3~4節

Heb 3:3 家よりも、家を建てる者が大きな榮譽を持つと同様に、イエスはモーセよりも大きな栄光を受けるのにふさわしいとされました。

Heb 3:4 家はそれぞれ、だれかが建てるのですが、すべてのものを造られた方は、神です。

(1) ユダヤの伝承の2つの流れ

- ①モーセは、歴史上最も偉大な人物である。
- ②あるいは、モーセは、アブラハムに次いで偉大な人物である。

(2) イエスがモーセよりも優れていることの論証①

- ①イエスは、イスラエルの家を建てた。
- ②モーセは、イスラエルの家の中にいて、神に忠実に仕えた。
- ③家を建てる者は、家よりも大きな栄誉を持つ。

(2) イエスがモーセよりも優れていることの論証②

- ①家は、誰かによって建てられる。
- ②神は、すべてのものを造られた。
- ③イエスは、創造の業に参加しておられた。

Joh 1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

Heb 1:2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

- ④つまり、イエスは神である。

2. 5節

Heb 3:5 モーセは、しもべとして神の家全体のために忠実でした。それは、後に語られる事をあかしするためでした。

(1) モーセは、神の家全体のために忠実であった。

- ①しかし、神の家における彼の地位は、しもべであった。
- ②「しもべ」(デューロスではなく、セラポン)
 - *相手の身分や状態に関係なく、忠実に仕える人
 - *医者が病人を治療するように、隣人の必要に仕える人
- ③モーセは、イスラエルの霊的、道徳的病を癒した。

(2) モーセの奉仕は、イエスの奉仕の予表であり、影であった。

- ①「後に語られる事」とは、メシアに関することである。

3. 6節

Heb 3:6 しかし、キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし私たちが、

確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、私たちが神の家なのです。

(1) モーセとキリストの対比

- ①モーセは、神の家の中でのしもべであった。
- ②キリストは「御子」として、「神の家」の上にあつて、それを治められる。
- ③今は、ユダヤ人信者と異邦人信者は、ともに神の家に属している。
- ④エペ2:19

Eph 2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや外国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。

(2) 「確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、」

- ①忍耐ある信仰は、その人が真に救われていることの証拠である。
- ②忍耐のない人は、救いに至る信仰があるという証拠がない。

結論：

1. 旧約聖書から学ぶこと

Heb 3:5 モーセは、しもべとして神の家全体のために忠実でした。それは、後に語られる事をあかしするためでした。

- (1) 神の計画が成就するために、人がどのように用いられたか。
- (2) 霊的真理を教えるために、事件や人物が象徴としてどのように用いられたか。
- (3) メシアの来臨を予告するために、預言者たちがどのように用いられたか。
- (4) メシアの死の意味を教えるために、祭儀法がどのように用いられたか。
- (5) 旧約聖書の理解なしに、新約聖書を理解することは不可能である。

2. モーセとイエスの対比

- (1) モーセは、奴隷になっていたイスラエルの民をエジプトから解放した。
 - ①イエスは、信じる者を罪の束縛と呪いから解放される。
- (2) モーセを通して、神はイスラエルの民を「神の民」として造られた。
 - ②イエスは、信じるすべての者を「神の子」として造られる。
- (3) モーセは、イスラエルの民に旧約をもたらした。
 - ③イエスは、すべての者に新約をもたらした。
- (4) モーセの時代(旧約時代)、イスラエルの民だけが神に近づくことができた。
 - ④イエスの時代(新約時代)、信じるすべての者が神に近づくことができる。
- (5) すべての点において、イエスはモーセよりも素晴らしいことを行なわれた。